



NPO法人富里ビークルサービスの皆さん

Contents

＜必要な人の“足”となって＞
NPO法人富里ビークルサービス

＜ちい寄附賛同店＞
自立学習応援型個別指導
片岡塾
フットケアサロン・ポアント

＜とみさとの魅力みつけた！＞
吉木 保さん

必要な人の“足”となって

今まで元気に運転していた人が病気や障害、介護などで自分では移動が困難になってしまうケースが増えてきています。

そうした方たちの足となっている、個別移送サービス「NPO法人富里ビークルサービス」の活動取材しました。

安心して移動できるために

「NPO法人富里ビークルサービス」は自家用車を使用した個別移送サービスを実施している市民活動団体です。市内の高齢者、障害者の方で公共交通機関を利用することが困難な方を支援するために、国土交通省の認可を受けた会員制の「福祉有償運送事業」を行っています。代表の窪田優さんが仲間と共に設立したのは平成26年。今年でちょうど10年が経ちました。

団体を立ち上げる以前、窪田さんは富里市社会福祉協議会が実施していた通院や買い物の送迎支援に、ボランティアの運転手として参加していました。

ところが平成25年9月にこのサービスが廃止。利用していた方は市の委託事業である移送サービスに変更しなければならなくなりました。

月に4回しか使えない、役所や通院のみでしか利用できないというこの新たな移送サービスは、利用者の方が不便になり、困る人が増えてしまうのではないかと懸念が、窪田さんにはあったそうです。

そこで、今まで協力し合っていたボランティアの運転手に集まってもらい、「送迎ボランティアの組織を独自に作って活動を続けるか、完全に身を引くか」を何度も話し合いました。

話し合いを重ねていく中で、高齢者や障害者の移動に「ドアツードア」のサービスが求められていることを確信し、団体の立ち上げに動き出しました。すぐに賛同者や協力者を見つけ、同じような団体を探して勉強会を開き、NPO法人を立ち上げ、無事に移送サービス事業を始めることができました。



24時間テレビ「愛は地球を救う」より贈呈された車

必要な人に寄り添う

現在は、運転手8名の体制でサービスを提供しています。

介護認定を受けた方か、公共交通を利用する事が困難な方など、このサービスを本当に必要としている方に届けるために、申込時に細かく聞き取りをしています。例えば、高齢だからとか、タクシーより安いからなどの理由ではこのサービスを利用することはできません。

また、完全予約制でドアツードアで利用できるほか、他に予約が入っていなければ、病院の帰りに買い物をすることができるなど、ルールの範囲内で自由度を持たせ、必要な人に寄り添うことで、多くの利用者の方に喜ばれています。

事業を始めた平成26年頃は利用会員登録が41人、年間輸送回数は263回だったのが、ピークの令和4年には利用会員登録が143人、年間輸送が2659回になりました。

サポートセンターからのお知らせ



ボランティアは はじめの一歩

みんなでボランティア体験 始めます！

ボランティアを始めたいと思っても何をしたらよいか分からない…
そんな時は身近で体験できるこの機会に、ぜひご参加ください♪
体験期間は7月21日（日）から10月31日（木）までです。

詳細はこちらから↓



昨年の体験の様子



運転手8人でこの利用回数をこなしていくのはかなり大変でしたが、富里市が令和4年10月にデマンド交通をスタートさせたことで利用者の選択肢が増え、結果的にやりくりもできるようになったそうです。

とはいえ、利用者の方を病院などに一度送っていくと帰りが何時になるか分からないので、待機時間が長くなるといった不自由さも出てきます。利用者が多い日は納得いただいたうえで何人かの方が同乗してもらうケースもあるなど、コミュニケーションを密にして工夫しています。

そういった調整をしても運転手がいけない時は、お断りをすることもあったとか…。

率先して運転してくれる人がいるからこそ、成り立っていると窪田さんは話してくれました。

高齢者の社会参加を支援

実際に利用している会員の方の移送に同行させてもらいました。富里市内から成田ニュータウンで行っている習い事のために月に2回、多い時で4回利用しているそうです。公共移送サービスだと通院か役所、銀行など利用制限があったり、デマンド交通の乗降ポイントまでは遠いので、習い事でも利用できるこのサービスがあることで、本当に助かっているとのことでした。

当日の運転担当の方は、「出かけることができる人はいつまでもお元気ですよ。色々な方と交流できるのは足があるからこそ。そのお役に立てることは光栄です。こんな風に年をとれたら老後も怖くないですね（笑）」と話していました。



送迎の様子

窪田さんがこのサービスを立ち上げた目標の一つが社会参加を支援することだったそうです。「外に出る機会が少ない高齢者は、移動手段がないと余計に家に引きこもりがちになります。そんな方でも家から出て習い事をしたり、カラオケに行ったり、人に会っておしゃべりしたり。積極的に社会とつながりをもつことで、いつまでも気持ちも元気でいられます。ただ、移動手段がないとあきらめてしまう人が多いんです。どんどん私たちを利用してほしいと思います。」と話してくれました。

交通手段のない高齢者にとって、「足」は重要な問題。困っている方の声を聞き、必要に駆られて行動する、まさに市民活動の原点ですね。

富里ピークルサービスを利用されたい方や運転に興味のある方は、代表の窪田さんまでお問合せください。

NPO法人富里ピークルサービス

くぼた まさる
代表 窪田 優 090-7841-3818

「寄附で支えるまちづくり」に賛同しているお店

自立学習応援型個別指導 片岡塾

かたおかまこと
片岡 誠 さん

開校から10年。【すべては子どもたちのために】を胸に、邁進しています。
「寄附で支えるまちづくり」素敵ですね。子どもたちにも優しさのバトンをつなげていきたいです。



【富里市七栄651-107京ハイツ2F Tel 0476-37-6041】

フットケアサロン・ポアント

たてやま ゆかり
立山 由香里 さん (写真右)

地域の方がいつまでも元気に自宅で過ごせるよう、全力でサポートします！これからは市民活動として皆さんのお悩みにも耳を傾けていきます。よろしくお願いいたします！



【富里市七栄647-121 Tel 070-1341-7123】



とみさとの魅力み一つけた！

富里の魅力ある「人」「場所」「文化」などに
スポットを当てて紹介していきます。

むし博士

よしき たもつ
吉木 保さん



生き物のことならなんでもお任せ！という吉木保さんは大の生き物好きです。保全活動に勤しみながらあちこちの谷津で過ごし、作業をしながら虫やカエルを見つけてはワクワク。隠れている虫も吉木さんにかかればすぐに見つけられてしまいます。オトシブミが葉を巻いて巣を作る様子を40分間観察していたこともあるとか。谷津に来る子どもたちからは「むし博士」と呼ばれるほどです。

そんな吉木さんの原点は、子どもの頃、夏休みのほとんどを佐賀県の山間にある祖父母の家で過ごしたことにありました。山の中でアリと遊んだり、川でウグイやナマズを捕まえたり、日が暮れるまでいとこたちと豊かな自然の中で遊んでいたそうです。



参加者に生き物について説明する吉木さん

そのまま大きくなったと思いきや、家中の家電を分解してしまうほど機械いじりも好きだったこともあって、電子系のエンジニアとして机にかじりつくような、生き物とは無縁の生活を送っていました。

深く眠っていた子どもの頃の記憶が蘇ったのは、今から約2年前、SNSで「特定非営利活動法人NPO富里のホタル」の活動に出会ったことがきっかけでした。すっかり富里の自然に魅了され、「おしどりを育む会」の大谷津、「清水建設」のしみず谷津と「谷津みらいの会」の末廣谷津と活動の場を広げています。

毎年、夏に行うホタルの鑑賞会では、参加者に谷津の醍醐味をより味わってもらえるよう、セミの羽化や寝ている蝶やトンボを見つけ出しては皆さんに見てもらっています。子どもも大人もとても興奮するのは言うまでもありません。



珍しい虫、
シラホシカミキリ

自然観察指導員でもある吉木さんは、子どもたちと生き物探しをしたり、生き物の生態を説明したりするのも楽しみの一つになっています。

「子どもの頃、たくさん自然に触れることはとても大切です。そうすると、大人になってからも自然を大切にできますから。」と吉木さん。

この4月からは「谷津みらいの会」の会長になられ、旧岩崎別邸奥の末廣谷津を、多くの市民が自然体験もできる憩いの場、カエルやトンボ、ホタルがたくさんいる谷津にしたいと、夢いっぱいです。

コーディネーターのひとりごと

今年はオリンピックイヤー！個人的にはバレーボールのメダルに期待しています。進化し続ける技は個人の努力の賜物ですが、チームワークが何より大切なスポーツです。富里の市民活動もチーム一丸となって盛り上がっていくといいなあ。（うさ子）

SNSアカウント



<連絡先>とみさと市民活動サポートセンター

〒286-0292 千葉県富里市七栄652番地1(富里市役所 すこやかセンター1階)

■Tel/Fax:0476-93-4123 ■E:tomisapo@bz04.plala.or.jp

登録団体数：93団体（6月1日現在）

年4回発行 発行部数：2500部 配布先：市内公共施設 他

